

SMBCグループ IR Day

2021年6月23日





本日のアジェンダ

13:30-13:35	■ 冒頭ご挨拶	グループCEO	太田 純
13:35-14:15	■ P3 リテール事業部門	執行役専務	山下 剛史
14:15-14:55	■ P12 ホールセール事業部門	執行役専務	金丸 宗男
14:55-15:05	休憩		
15:05-15:45	■ P20 グローバル事業部門	執行役専務	西崎 龍司
15:45-16:25	■ P26 市場事業部門	執行役専務	小池 正道

リテール 事業部門

執行役専務 山下 剛史



中期経営計画の進捗

財務目標

業務純益

2022年度目標
3,050億円
2019年度比
+350億円

ROCET1

2022年度目標
12%

リスクアセット

3カ年増減
+0.4兆円
前中計期間
▲0.3兆円

KPI

	20年度	前年比	22年度
ストック収益資産残高*	16.7兆円	+3.1兆円	18兆円
買物取扱高	20.8兆円	+0.4兆円	31兆円
カードローン残高	1.7兆円	▲0.1兆円	1.9兆円
SMBCダイレクト利用者数	730万人	-	800万人
利用率	42%	-	45%
店舗ネットワーク 合理化効果	△70億円	-	△250億円

20年度実績

	20年度	前年比
業務粗利益	11,274億円	▲487億円
経費	▲9,104億円	△241億円
(経費率)	80.8%	▲1.3%
業務純益	2,192億円	▲244億円
ROCET1	9.4%	+1.6%
リスクアセット	12.3兆円	+0.1兆円

主な取組

資産運用

- マーケットの追い風を捉えて、販売を拡大・計画前倒しで営業モデル改革を展開（富裕層対応力強化）

決済

- 消費減退下、ニーズを着実に捕捉し業容拡大（ナンバーレスカード等、新商品・サービスを投入）

コンシューマー ファイナンス

- 残高の大幅な減少に対し、デジタル投資等、新たなニーズへの対応を継続

新規事業

- エルダープログラム（21/4～）

* 預かり残高に応じて、信託報酬等、運用収入が生じる商品残高（ファンドラップ・投資信託・外貨預金・保険等）

2022年へのロードマップ°

戦略の骨子

外部環境

厳しい業務環境の継続

- マイナス金利／資金余剰
- 薄利化
- 競争激化

低成長の国内における貴重な成長機会

- 貯蓄から資産形成
- 人生100年
- デジタル・キャッシュレス

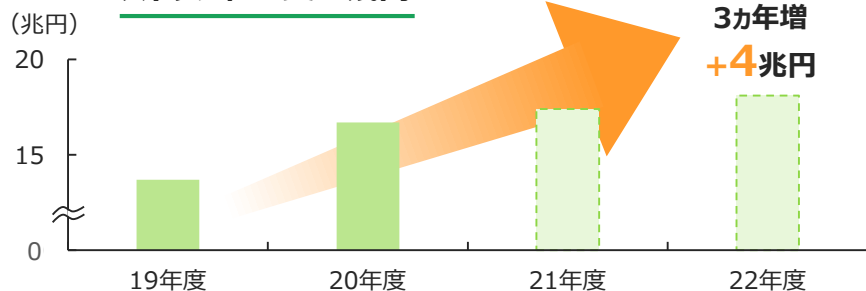
マーケット平均を超える成長

グループベースのコスト構造改革

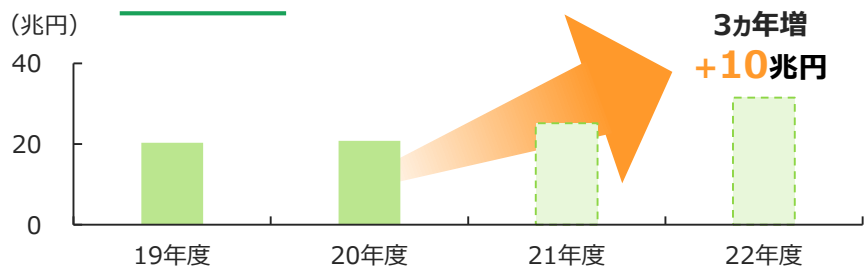
商品・サービス差別化 / デジタル化推進

KPI

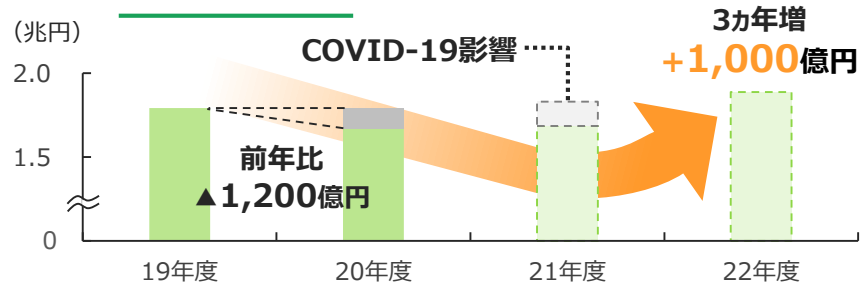
ストック収益資産残高



買物取扱高



カードローン残高



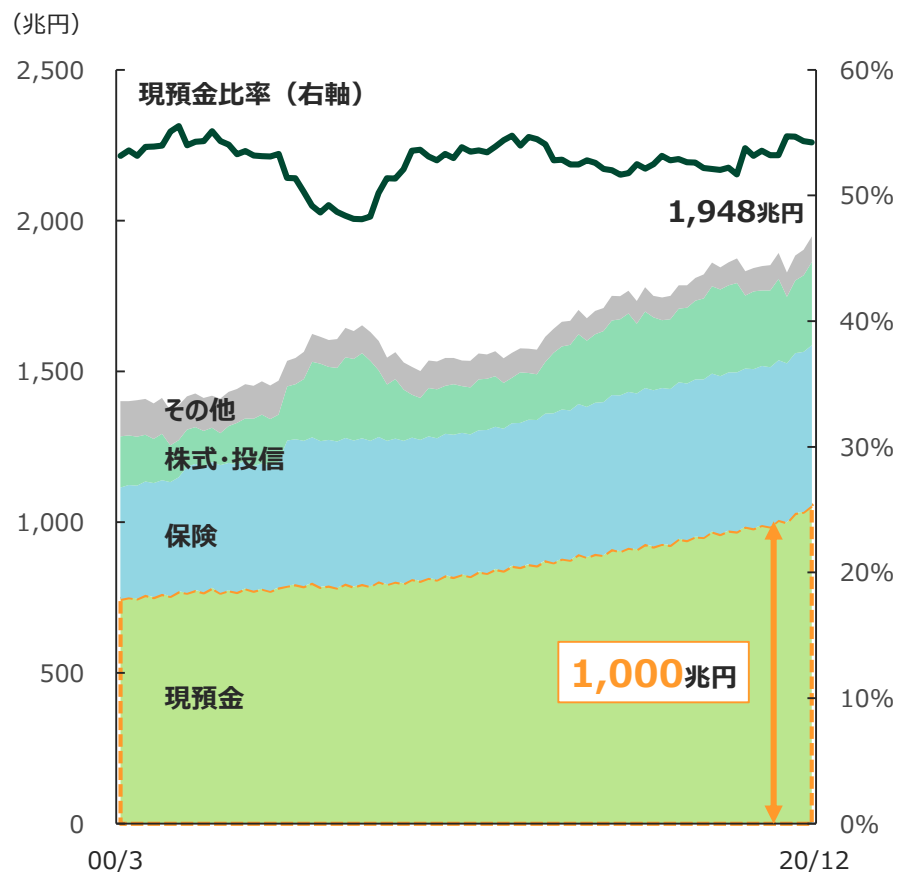
店舗ネットワーク合理化効果

22年度
△250億円

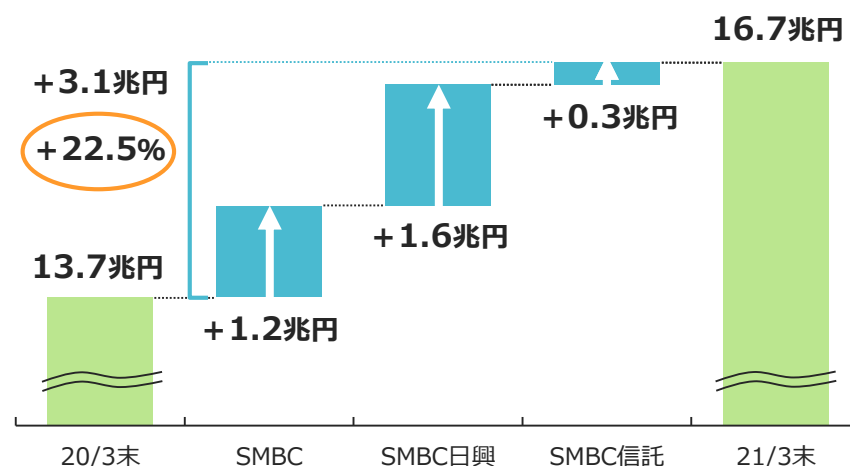
資産運用ビジネスのサステナブルな成長

グループベースのストックビジネスへの転換

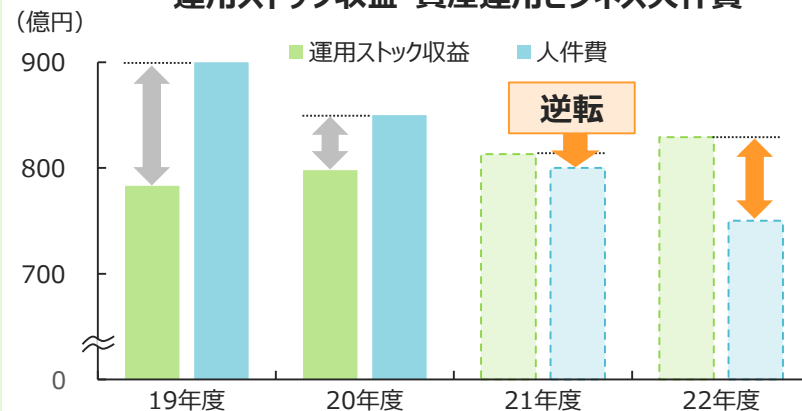
個人金融資産の推移



ストック収益資産残高増加額



運用ストック収益・資産運用ビジネス人件費*



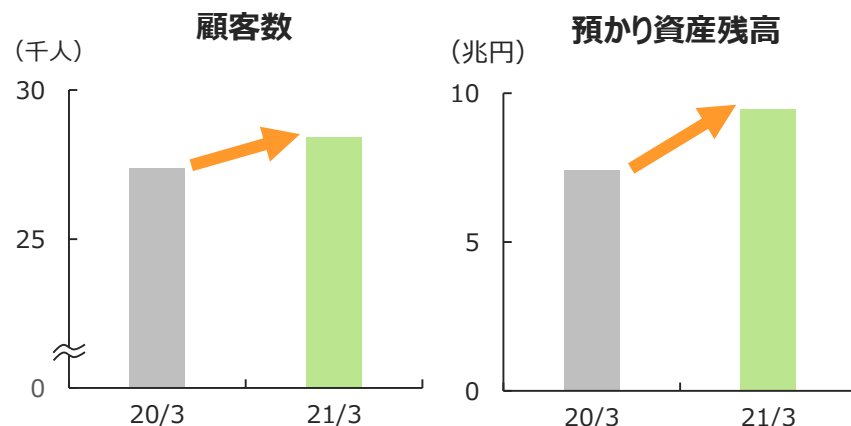
* 運用ストック収益は21年度管理制度に基づき算出。人件費は資産運用ビジネスに従事する人員数をベースに試算

資産運用ビジネスのサステナブルな成長

■ SMBC日興を起点としたグループベースでの企画・推進強化



SMBC Private Wealthの進捗*



グループ連携の強化

■ SMBC日興・SMBCの商品仕入れ機能の統合によるグループ商品戦略の強化

- FGウェルスマネジメント商品企画部を設立
第一号商品の投資信託を
グループで21/6より取扱開始

PIMCO グローバル・ターゲット戦略債券ファンド
2021-06 (限定追加型)
追加型投信／内外／債券



■ SMBC日興のノウハウを活用したSMBCの間口拡大

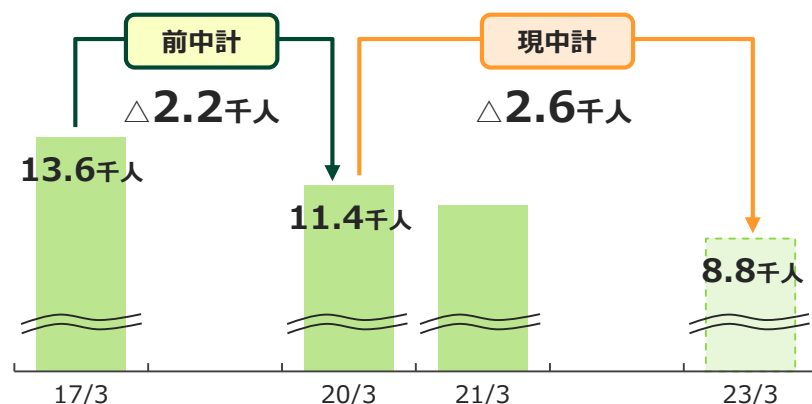
- SMBCに証券営業部を設置し、SMBC日興の人員を配置

* 各社PBの実績に基づく。預かり資産残高は時価をベースとした金額

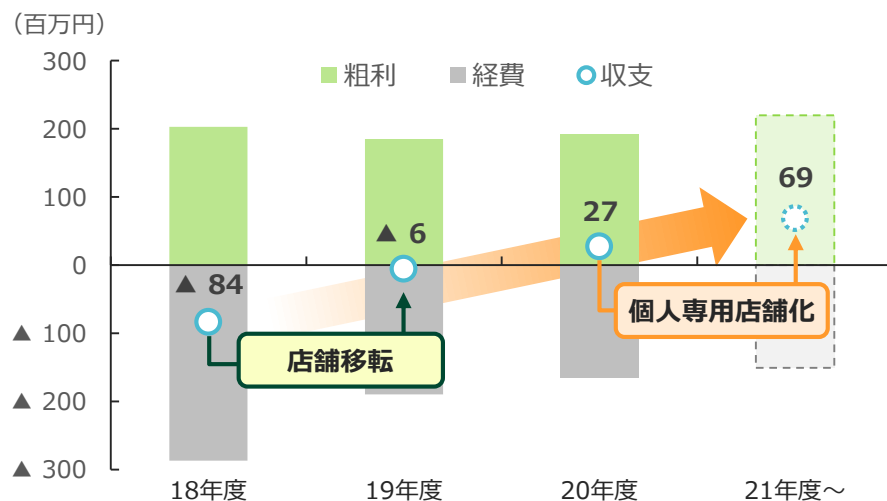
店舗改革への取り組み

店舗改革の効果

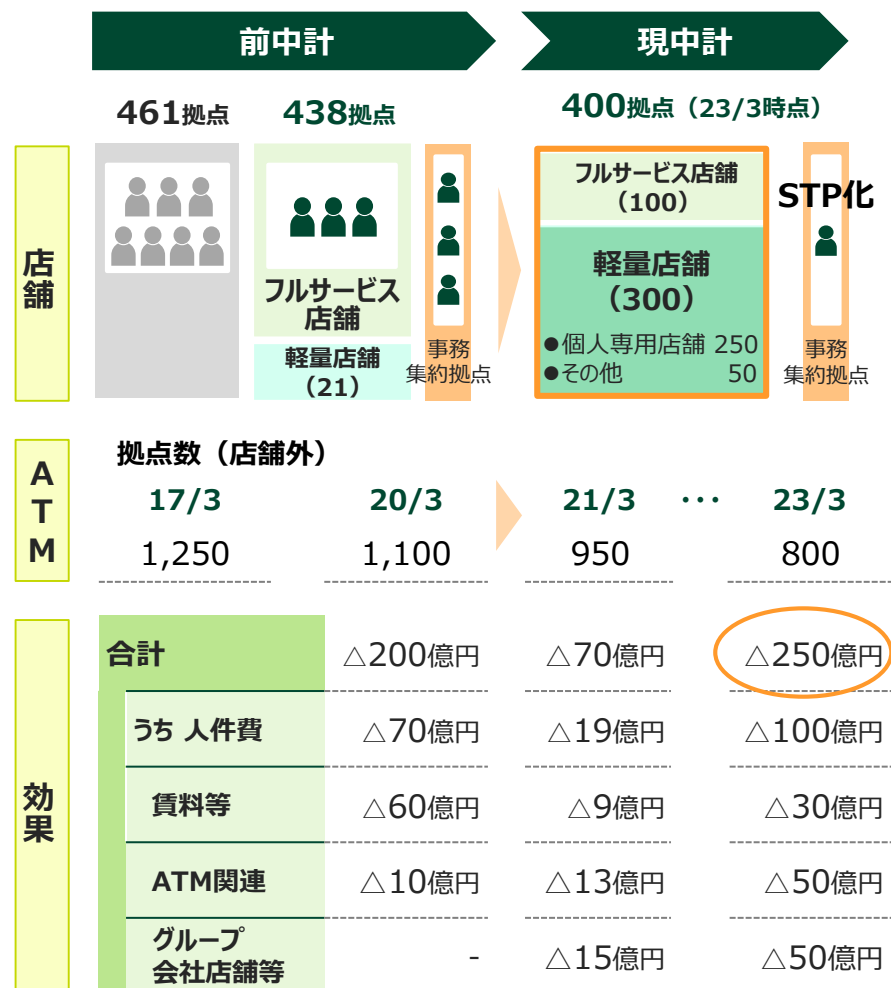
リテール店舗改革に伴う実動人員数の推移



収支改善モデル店の事例



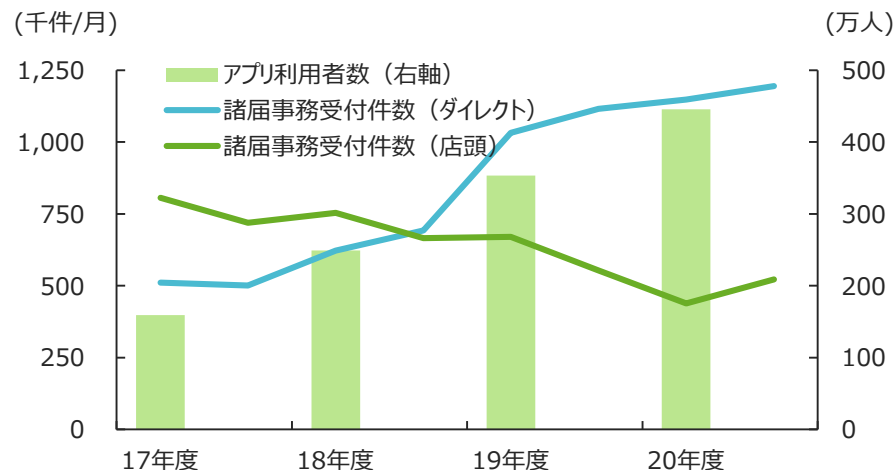
コストコントロールの進捗



デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

事務手続きのデジタルシフト

- お客さまのニーズの変化にあわせ、デジタルチャネルを強化



お客さまの利便性向上

予約サービス

20/7月より全店展開（本邦初）

月間約6万人がご利用



SMBCダイレクト・アプリのチャット機能

お客さまとの双方向のコミュニケーションを実現

グループベースでのアプリ連携強化

SMCC、SMBC日興の明細・残高の一元管理

店頭コンサルティングの強化

- 緊急事態宣言期間も含め、店頭コンサルは着実に拡大

	19年度	20年度	成長率*
店頭販売額	7,900億円	8,500億円	110% (130%)
店頭積立契約件数	22千件	33千件	150% (180%)

デジタルツール拡充



マネープランシミュレーション



将来起こることも含めて、
全体的に考えることが出来て有難い

50代



5～10年後の資金が十分確保
できていることが分かり、
お金の余計な心配が解消された

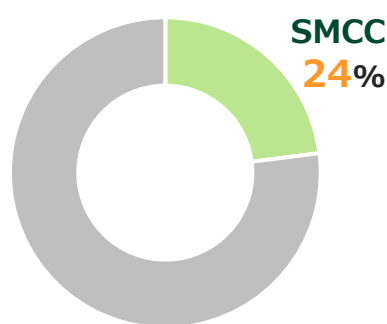
70代

* 括弧内は20年4-6月（緊急事態宣言期間中）を除く成長率

ペイメントビジネスにおけるNo.1の地位確立 – 決済ビジネス

■ アクワイアリングにおける圧倒的な地位確立

マーケットシェア



stera terminal

- 飲食、薬局等の大手企業への導入が進み、加盟店基盤の拡大に寄与



stera pack

キャッシュレス決済をサブスクリプションで手軽に導入

stera pack

業界最安水準 決済手数料 2.80%~

豊富なキャッシュレス決済から、集客・販売促進にも対応。

カード決済 タッチ決済

電子マネー

QRコード決済

- 中小企業向けサブスクリプションサービス
- **業界最安水準**
- 豊富なキャッシュレス決済
- 集客・販売促進にも対応

■ イシューング強化に向けた商品・サービスの拡充

安心・安全のナンバーレスカードの投入

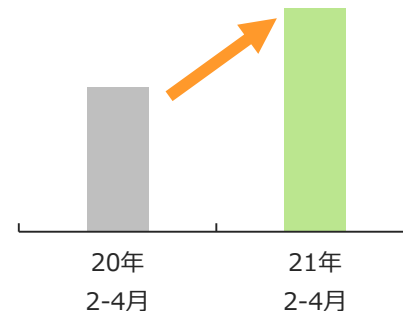
比較サイト クレジットカード
人気ランキング

👑 第1位*



プロパーカード獲得数

+55%



お得・便利なサービスの提供とラインナップ

Vポイントの活用



Visaの
Apple Pay対応
21/5開始

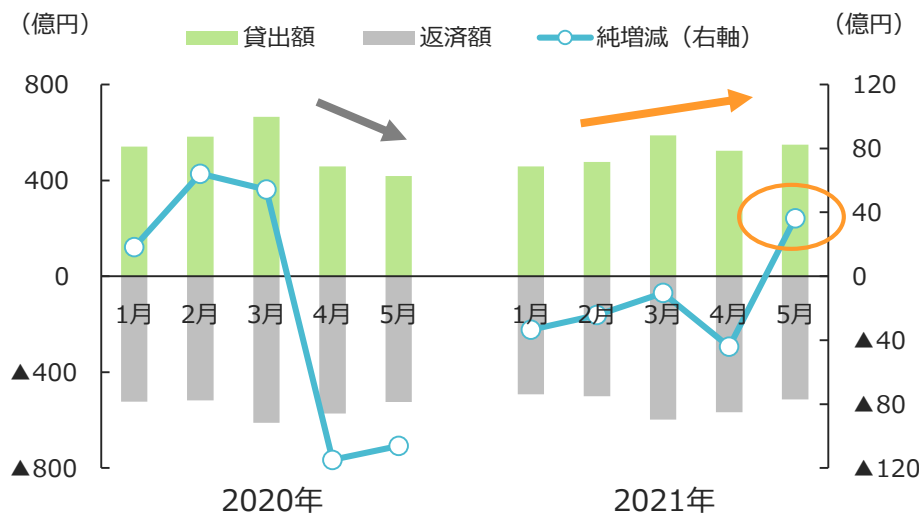


Google Pay対応
19/9開始

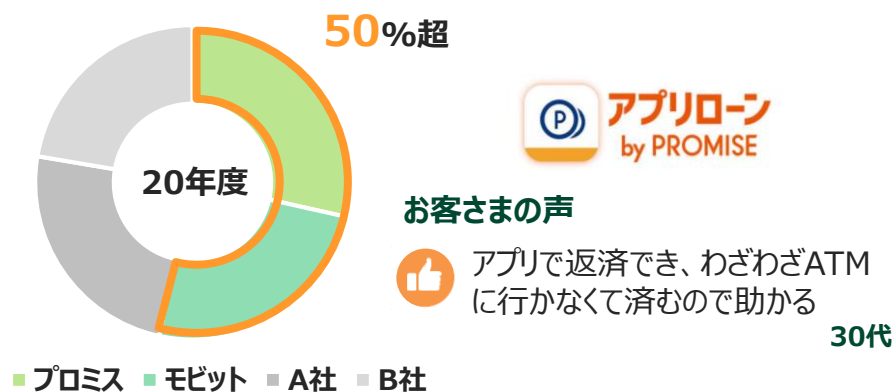


ペイメントビジネスにおけるNo.1の地位確立ーCFビジネス

残高反転の兆し



圧倒的な新規申込シェア



DXの加速*

SMBCCF

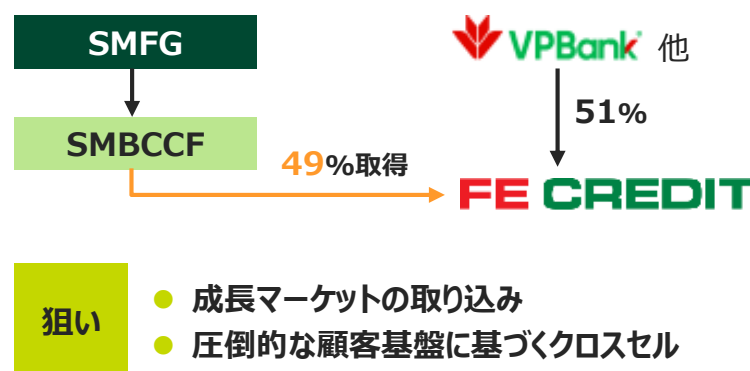
	16年度	20年度
新規会員WEB比率	70%	90%
アプリ利用率	20%	70%
20代・30代構成率	60%	70%

SMBC

SMBCカードローンのDX推進

	申込	契約	借入	返済
As is	ACM/Web	ACM/郵送	カード	カード
To be	Web完結化			

ベトナムFE Creditへの出資



ホールセール 事業部門

執行役専務 金丸 宗男



中期経営計画の進捗

財務目標

業務純益

2022年度目標

4,050 億円

2019年度比

+450億円

ROCET1

2022年度目標

9%

リスクアセット

3カ年増減

+1.1 兆円

前中計期間

▲0.6兆円

KPI

	20年度	前年比	22年度
ベース収益増減率	+5.4%	—	3カ年 +3.8%
戦略分野ファイナンス・投資 取組額 ^{*1}	1.3兆円	+0.1兆円	累計 4.4兆円
法人向けデジタルソリューション 関連提供社数	9.7千社	+6.6千社	10千社
同トランザクションボリューム	9.5千件	+8.8千件	13千件
サステナブルファイナンス	0.9兆円	—	累計 1.4兆円
日系M&A件数 リーグテーブル ^{*2}	2位	+2位	2位

*1 戦略分野ファイナンス（LBO・PF・NRL・REIT・DIP）の投入金額を測定

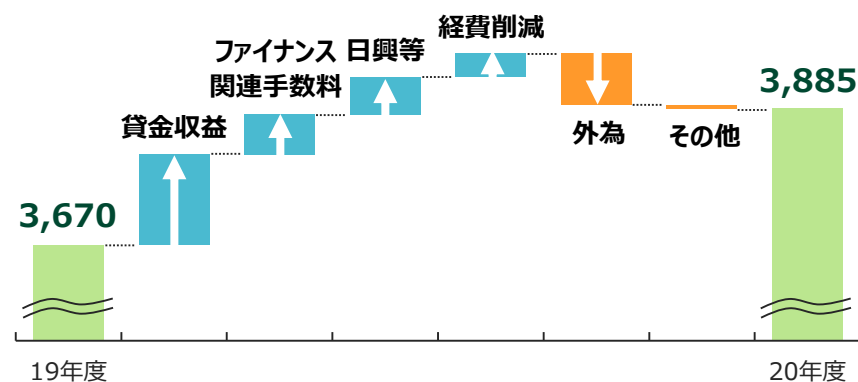
*2 100億円以上

20年度実績

	20年度	前年比
業務粗利益	6,349億円	+148億円
経費	▲2,999億円	△37億円
（経費率）	47.2%	△1.7%
業務純益	3,885億円	+215億円
ROCET1	5.6%	▲4.6%
リスクアセット	33.4兆円	+2.6兆円

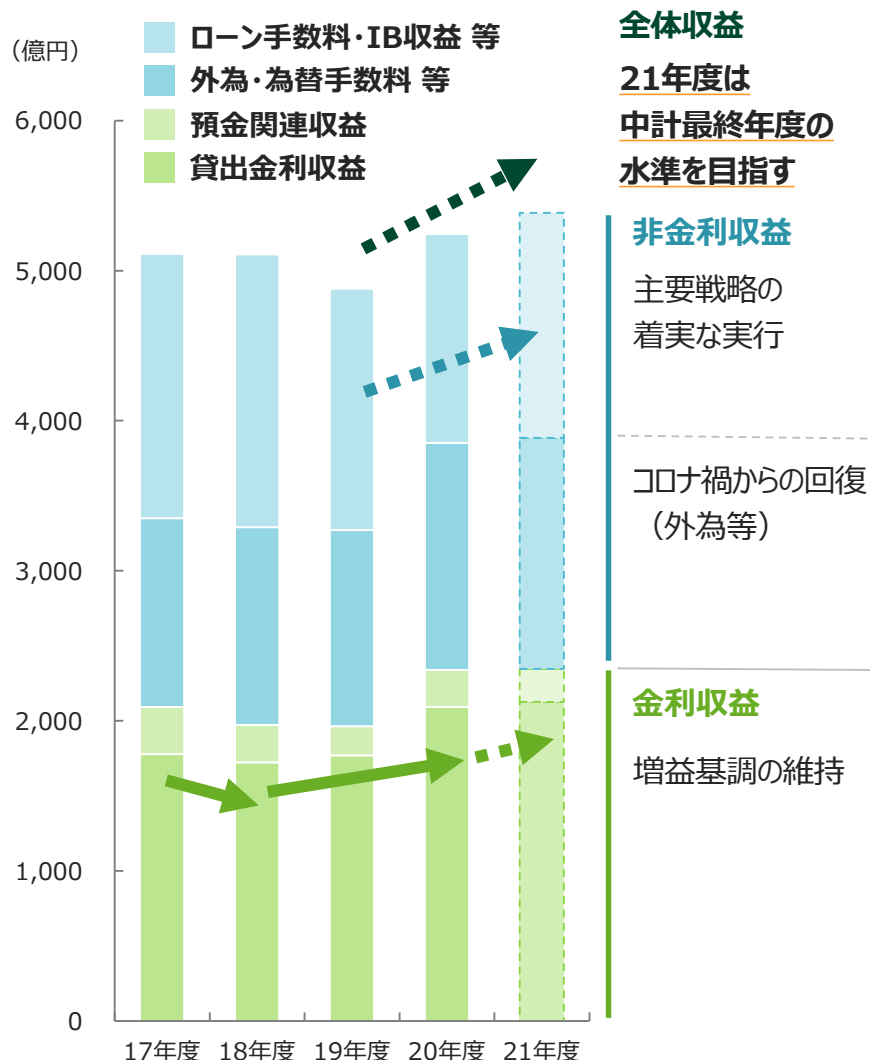
20年度業務純益（前年比）

（億円）

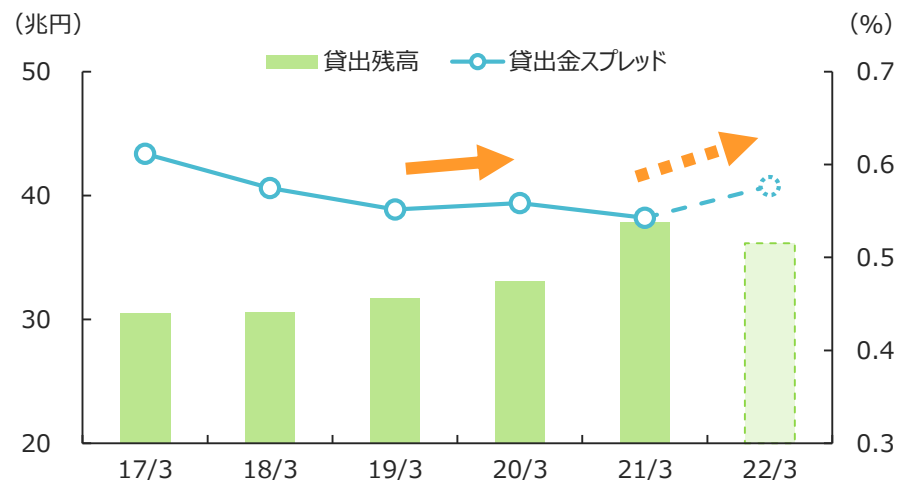


21年度計画

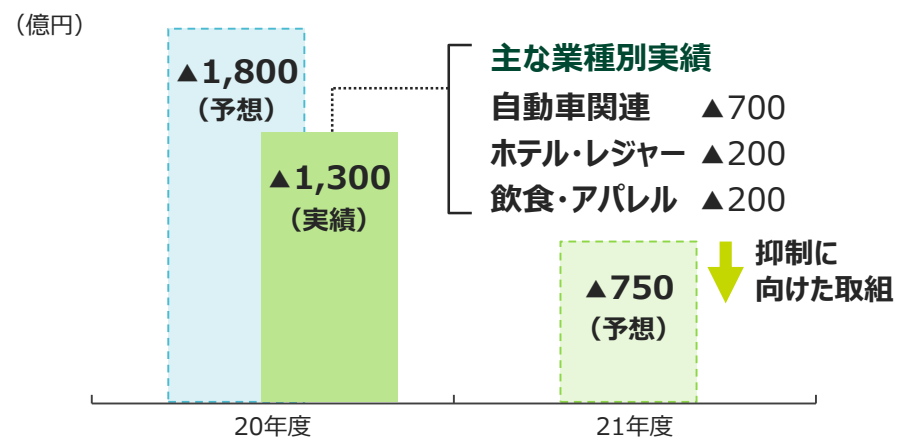
収益計画 (SMBC) *



貸出残高推移／貸出金スプレッド

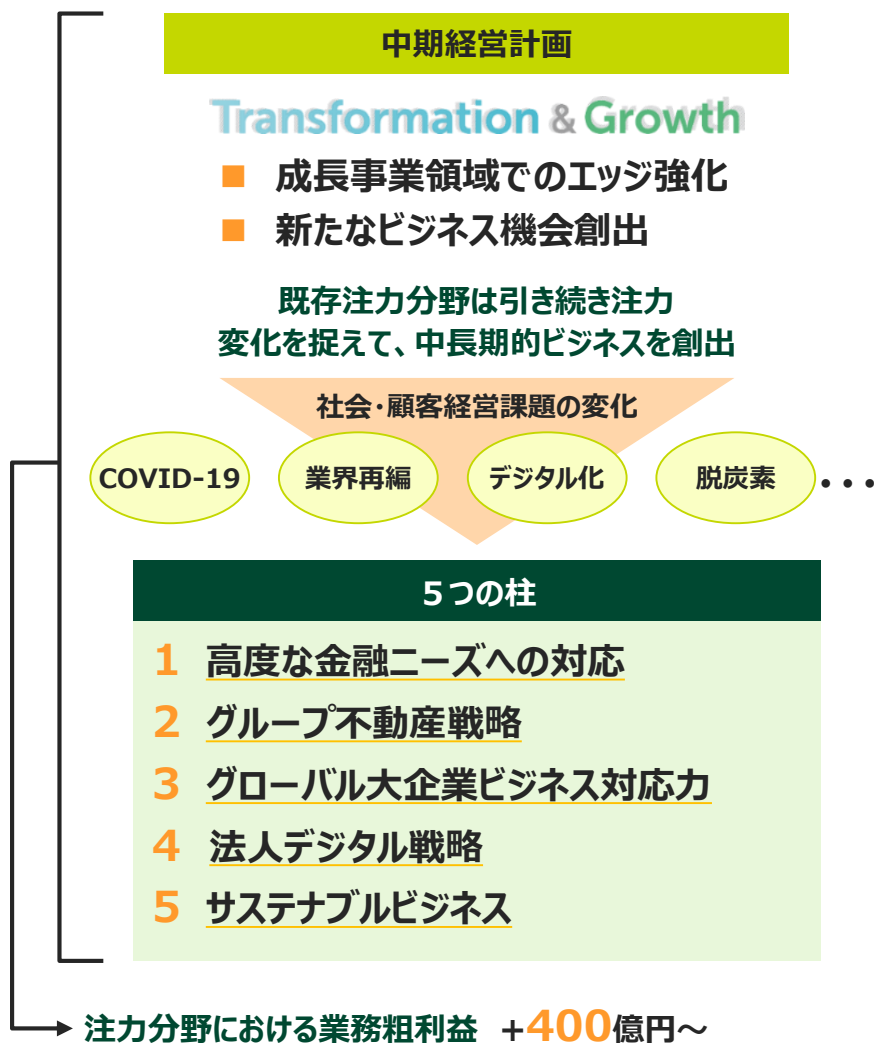


クレジットコスト抑制



21年度主要戦略／高度な金融ニーズへの対応

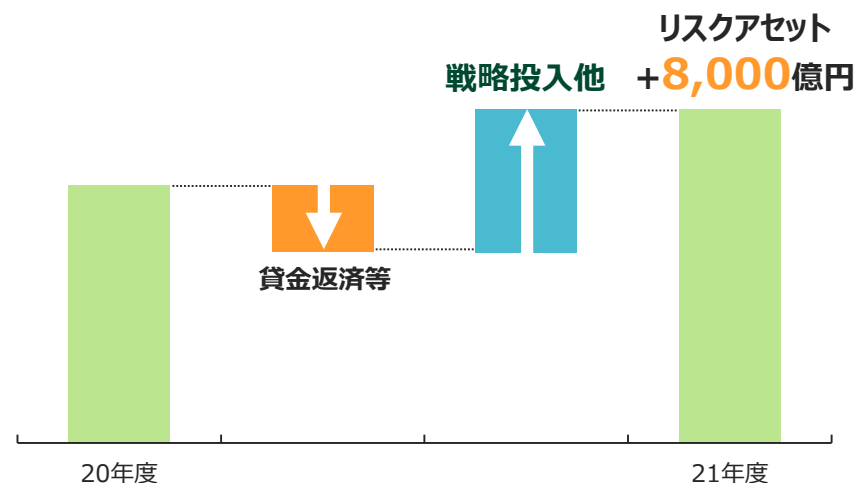
21年度主要戦略



高度な金融ニーズへの対応（リスクテイク）

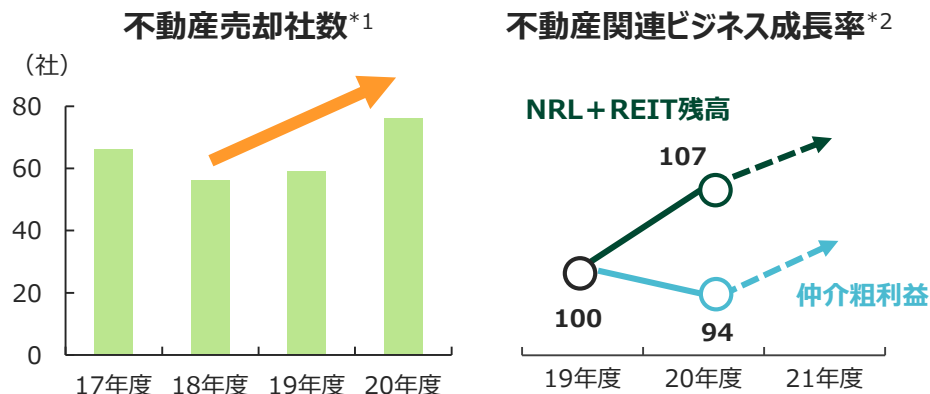


リスクアセット計画

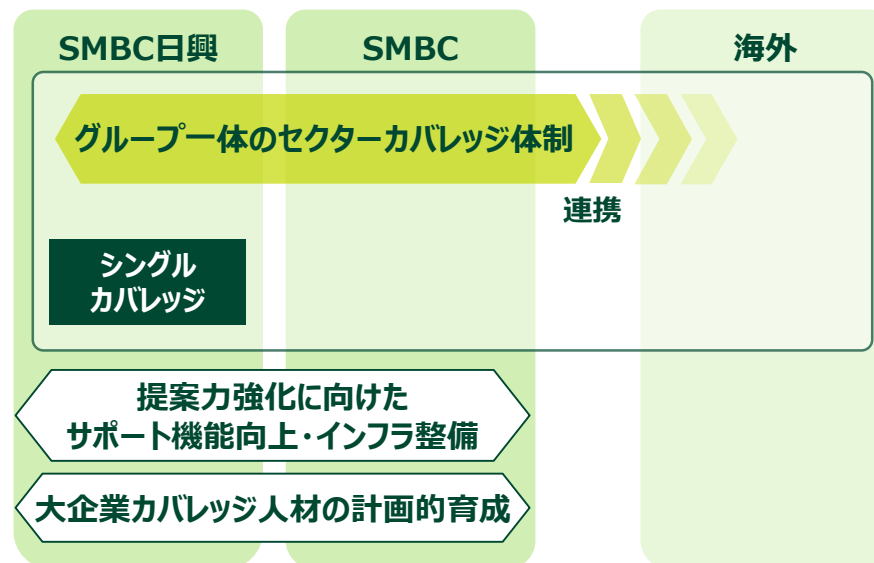
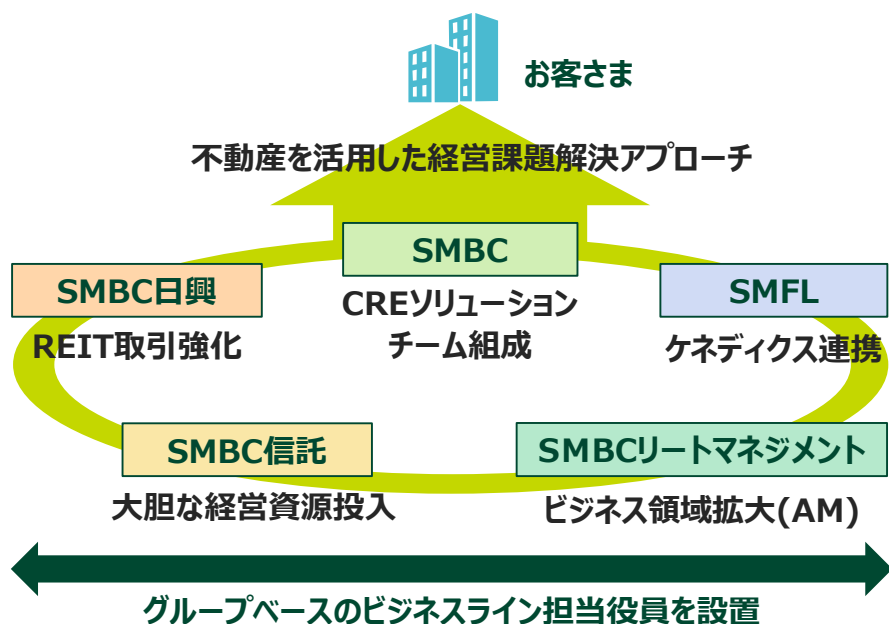
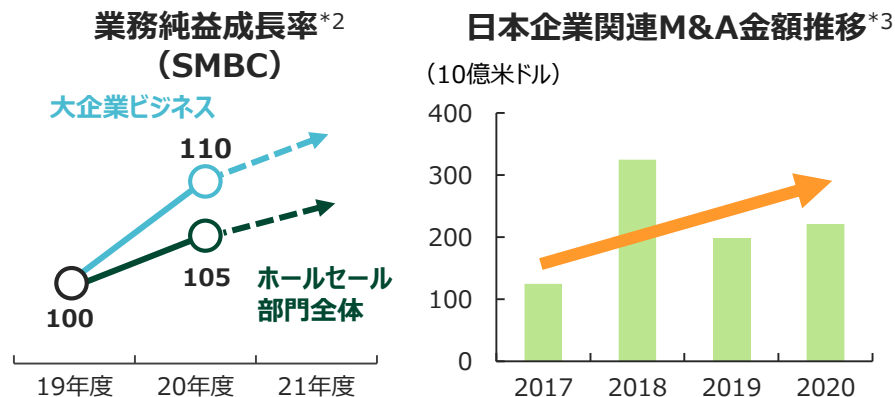


グループ不動産戦略／グローバル大企業への対応力強化

グループ不動産戦略



グローバル大企業への対応力強化

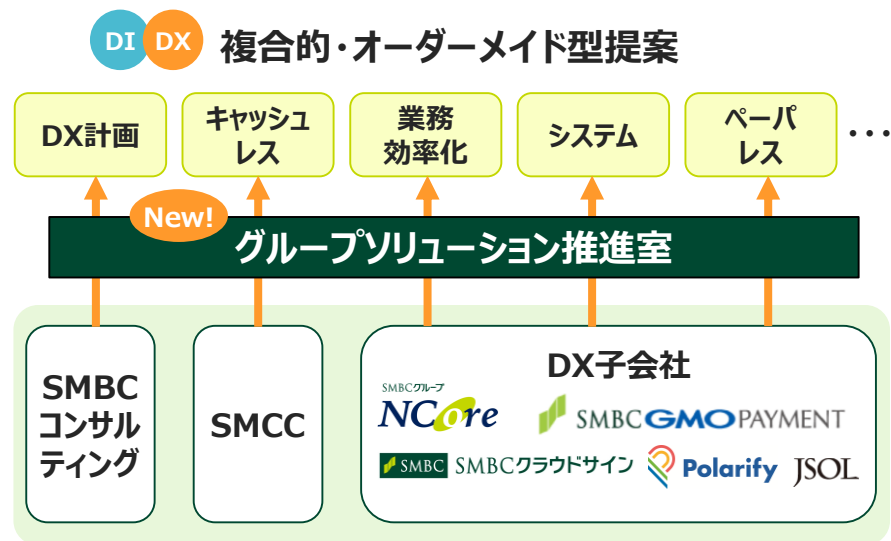
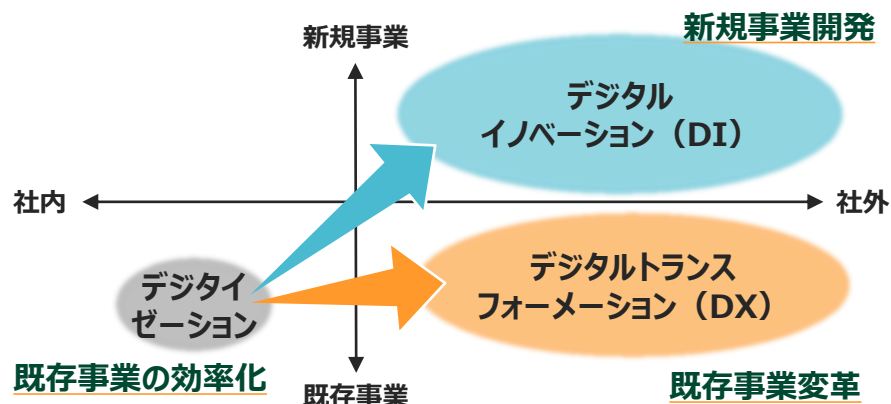


*1 東京商工リサーチ20年度「東証一部・二部企業 不動産売却」調査

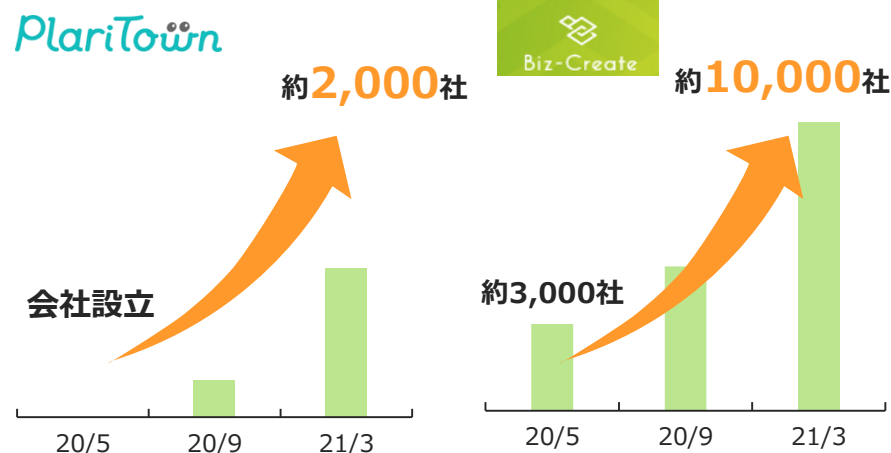
*2 19年度実績を100とした時の各年度の成長率 *3 Refinitiv (金額はランク日ベース、自社株買い・不動産取得を除く)

法人デジタル戦略

DX・DIニーズへの対応



法人デジタルプラットフォーム



事業承継

売掛債権保証

新たなデジタルサービスも

続々とリリース

Alliance Research

Amulet

地域金融機関や事業会社へのホワイトラベル提供

法人向けキャッシュレスサービス

コロナ禍を契機にした非接触・効率化ニーズの高まり



サステナブルビジネスの推進

SMBCグループが目指す姿

サステナビリティに対する
社会的要請の高まり

お客さまの経営課題

- ESG経営
- 非財務情報開示
- 脱炭素対応

中長期的な
金融イベント捕捉

事業再編

大型
設備投資

M&A
IPO

サプライ
チェーン
見直し

エンゲージメント・ソリューション

コンサルティング

サステナブルファイナンス

GREEN×GLOBE Partners

脱炭素ソリューション

グローバルネットワーク × グループベースのソリューション提供



海外

ノウハウ・
知見共有



日本総研
The Japan Research Institute Limited

SMBC日興証券

SMFL



SMBCコンサルティング

サステナブルファイナンス

1 グリーン

■ グリーンファイナンス

■ グリーン預金^{*1} **本邦初**

2 トランジション

■ 金融面からカーボンニュートラル
に向けた移行を支援

■ サステナビリティ・リンク・ボンド
(寄付型)^{*2}の実行 **世界初**

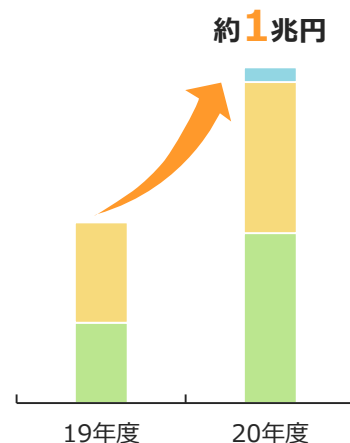
3 インパクト

■ PIF原則適合型融資商品導入

■ 英AIM社 (ESG債) **New**
日本法人開設 (21/6月)

グリーンファイナンス
取組金額 (国内)

■ 融資 ■ 債券 ■ リース



GREENxGLOBE Partners

パートナー企業数

47社 → 146社
20/9月 21/6月^{*3}

水素社会の実現

Hydrogen Council



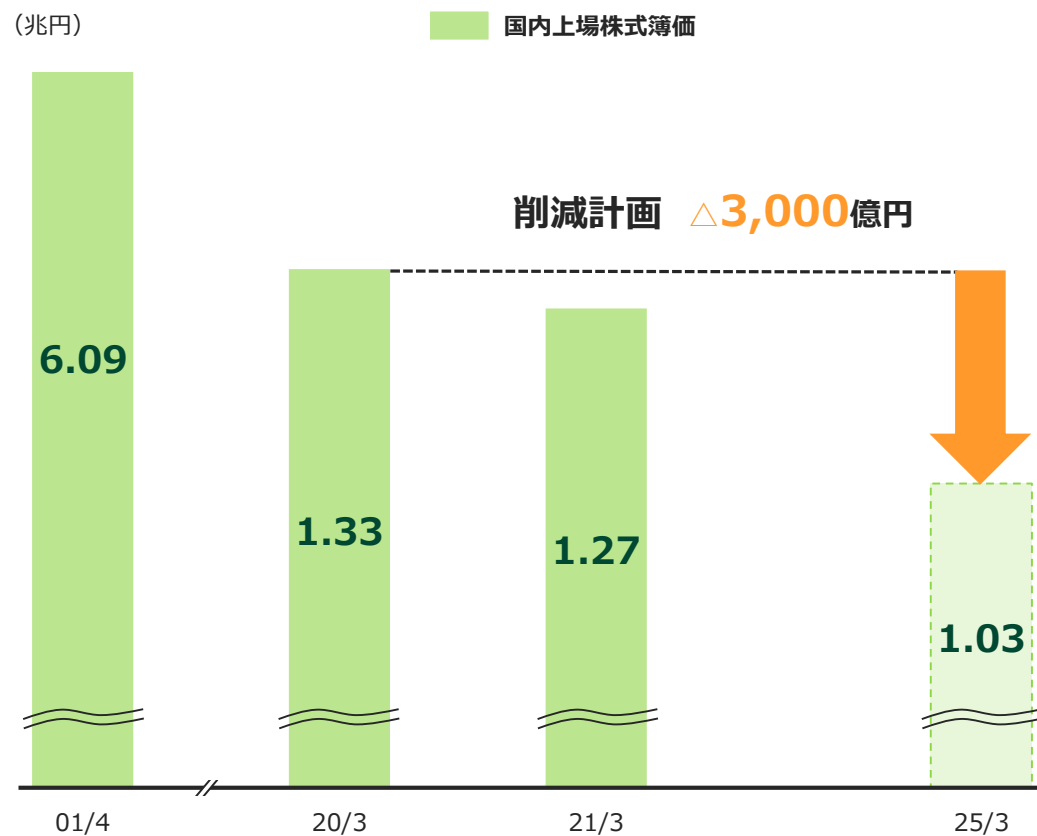
中部圏水素利用協議会

^{*1} 預金を再生可能エネルギー等の「グリーン適格プロジェクト」に対する融資に充当し、運用状況について第三者機関より定期的に評価を取得するスキーム

^{*2} 地球環境等に関する目標を達成できなかった場合に寄付金を支払うスキーム ^{*3} 2021/6/11現在

政策保有株式

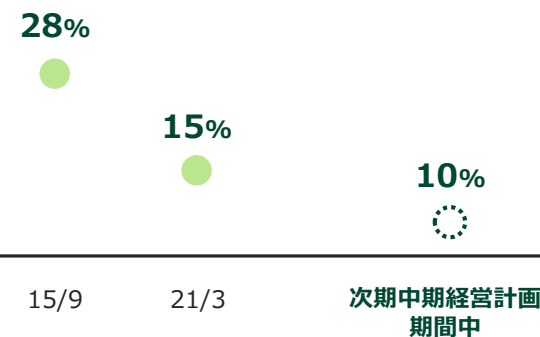
2025年3月までの5カ年で△3,000億円削減が目標。20年度は△550億円を削減



削減状況

前削減計画 (15/9-20/9)	5,100億円
現削減計画 (20/3-)	
削減額	550億円
未売却の売却応諾残高	540億円
削減・応諾済総計	1,090億円

CET1 *に対する株式の比率



グローバル 事業部門

執行役専務 西崎 龍司



中期経営計画の進捗

財務目標

業務純益

2022年度目標
4,300億円
2019年度比
+700億円

ROCET1

2022年度目標
9%

リスクアセット

3カ年増減
+2.5兆円
前中計期間
+5.8兆円

KPI

		20年度	前年比	22年度
CIB ビジネス	欧米非日系コーポレート 資産効率改善 ^{*1}	2.2%	+0.5%	1.8%
	米証IG債引受シェア	2.1%	+0.4%	3.0% (10位相当)
アジア エッジ	MF対象国収益	973億円	▲37億円	1,160億円
	アジアデジタル バンキング預金残高	1,049億円	+525億円	1,580億円
	海外トランザクション バンキング収益 ^{*2}	662億円	+71億円	680億円

*1 資産効率 = 粗利益 ÷ (アセット + コミットメントライン)、20年度管理制度に基づき算出

*2 金利影響調整後(内部管理ベース)

20年度実績

	20年度	前年比
業務粗利益	7,237億円	+429億円
経費	▲3,833億円	▲124億円
(経費率)	53.0%	△1.5%
業務純益	3,667億円	+39億円
ROCET1	6.2%	▲1.3%
リスクアセット	35.6兆円	▲0.1兆円

中計主要施策の進捗

CIBビジネス

- グローバルセクター運営開始
- 流動性支援艇子にIG債シェアアップ
- 債券S&T体制確立に向け、SMBC日興証券（米）増資

アジアエッジ

- アジアフランチャイズの拡大
 - （ベトナム）FE Credit出資
 - （シンガポール）ARA Asset Management出資

サステナビリティ

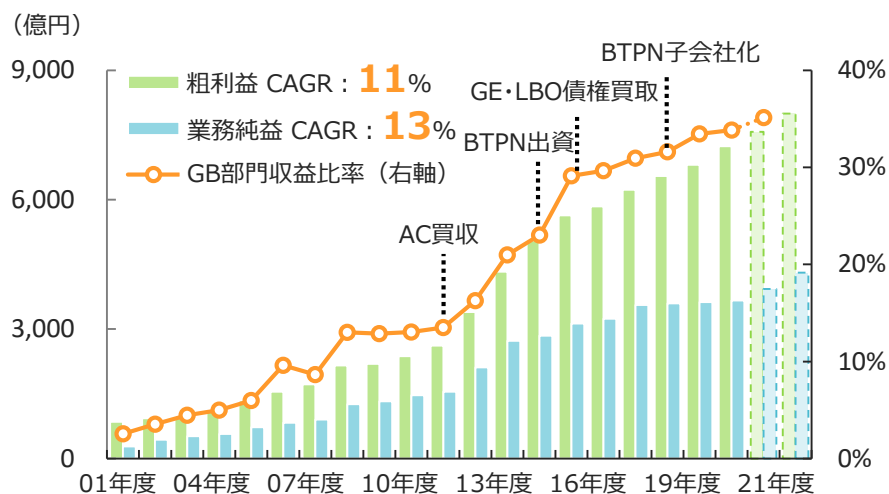
- グリーンローン:グローバルリーグテーブル二位（20年度）

デジタル

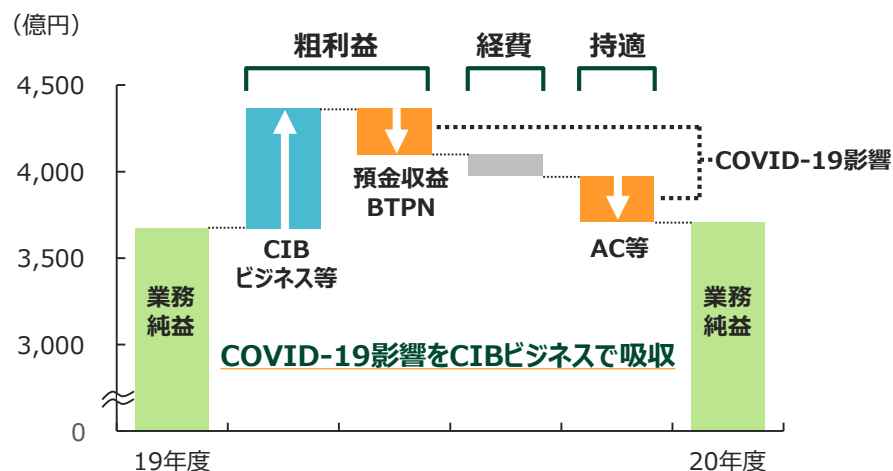
- 貿易金融プラットフォーム整備
 - Marco Poloで世界第一号案件実行

成長追求と効率的なビジネス運営

業績推移：成長追求



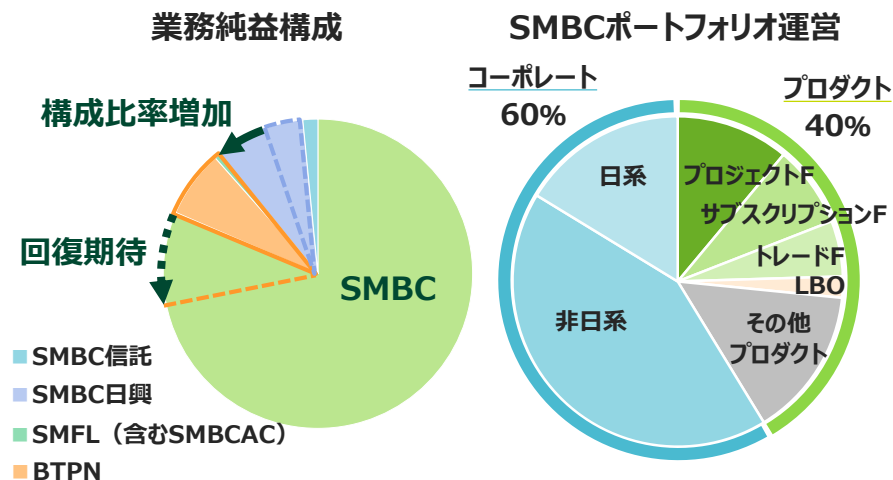
20年度業務純益要因分析



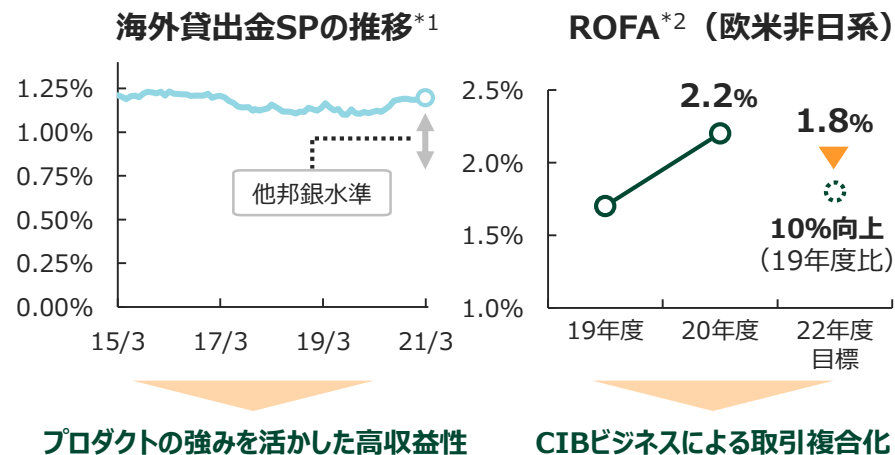
*1 月次・ストックベース

*2 Return on Funded Asset

総合力強化と収益性の高いポートフォリオ運営



効率的なビジネス運営

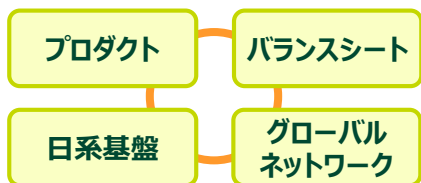


CIBビジネス強化

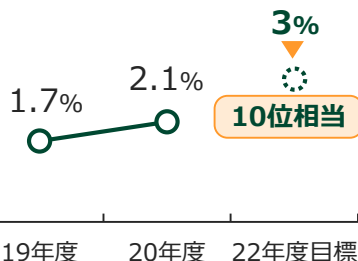
海外証券強化による成長ポテンシャルの具現化

IGプレゼンス拡大

「強み」を活かし提案力強化



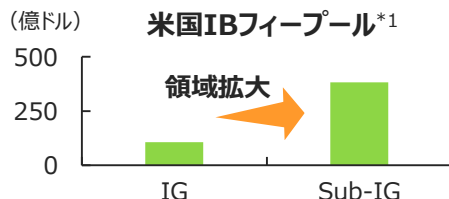
米IG債引受シェア



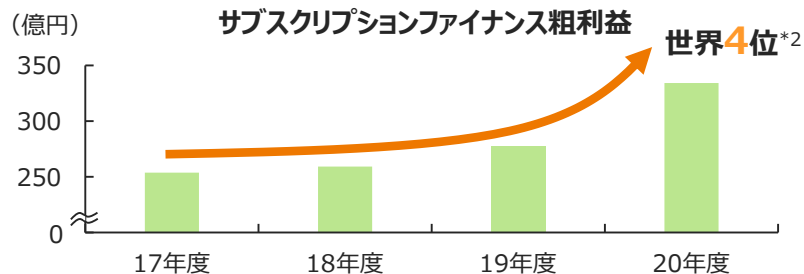
グローバルセクター運営によるシナジー創出

ビジネス領域拡大

- Sub-IG への顧客基盤拡大
- 米州債券S&Tの体制の確立
- リスク管理態勢拡充



ファンドビジネス拡充



サステナビリティビジネス：課題解決力の強化

SMBCグループ

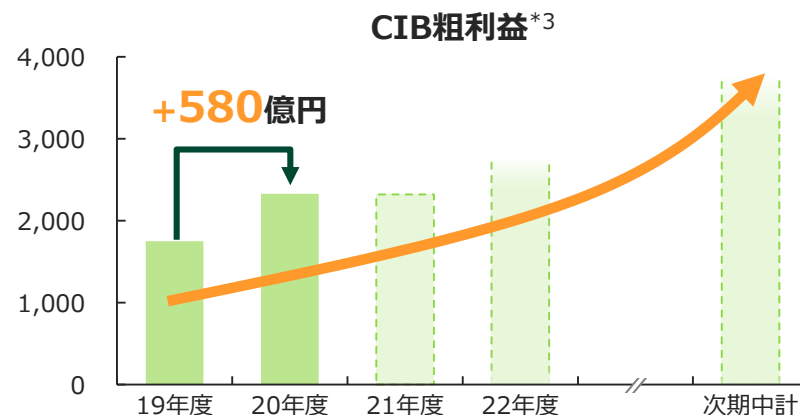
お客さまのニーズ

- ESG戦略/課題アドバイザリー
- 新エネルギー活用/転換提案
- ESG戦略立案（気候変動対応）
- エナジートランジション
- IR戦略

サステナビリティ・リンク・ローンのアレンジ事例

- ① 日系・大手製造業米国現法 **11億ドル**
 - 提案内容が評価され単独アレンジ。日系海外現法による初のESG調達
- ② 非日系・仏REIT大手 **30億ユーロ**
 - KPI設定等、スキーム構築についての専門性が評価されて参画

強みを活かし主要マーケットでトップティアを目指す

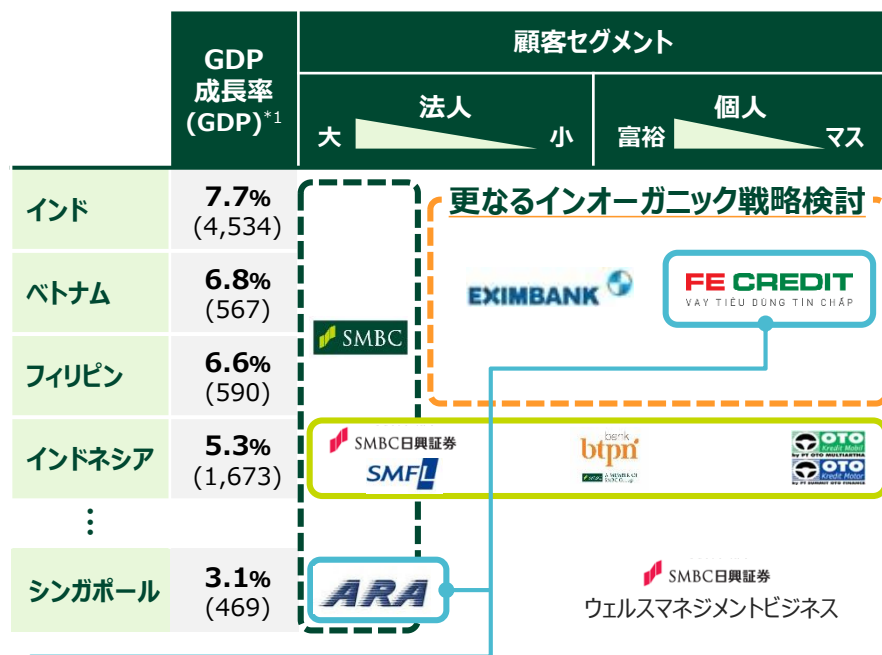


*1 2020年/Deallogic *2 当社推定(取組金額ベース)

*3 管理ベース(欧米非日系、ファンド関連収益等の合算)

アジアフランチャイズの拡大

中長期的成長を取り込む為のプラットフォーム確立へ



成長取込に向けた出資戦略

FE Credit

- 市場シェア50%
- 出資比率：49%
- ノウハウの相互提供

豊富なリテール
お客さま基盤

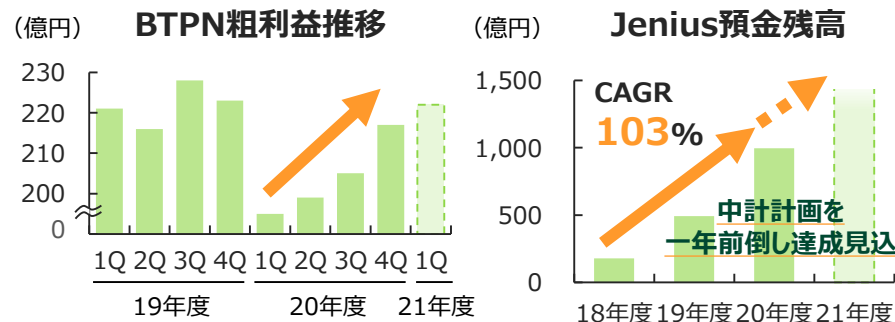
先進的な
デジタル取組

ARA Asset Management

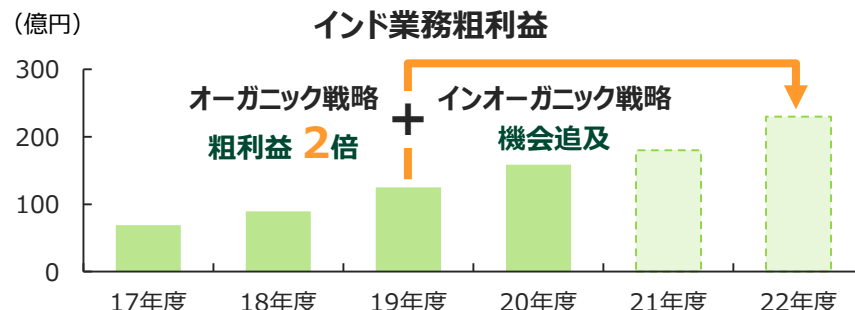
- 成長拡大有望な
アジア地域における
不動産アセットマネジメント
- 出資比率：10%

アジア広域での事業展開

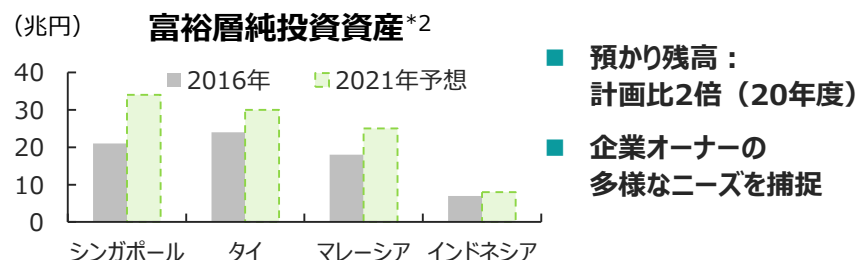
インドネシア COVID-19影響からの反転



インド 巨大マーケットの成長の取込へ



シンガポール アジアウエルスマネジメントビジネスへの参入



*1 IMF：GDP成長率(%) 2021-2026平均値 GDP(USD Bn) 2026予想値

*2 2016年は各種公表データを基に当社算出。2021年は当社推定

富裕層：注力4カ国における純投資資産1億円以上の個人 純投資資産＝保有資産から自宅・自家用車等の資産、借入を除いた額

航空機リース/持続的成長に向けた経営基盤強化

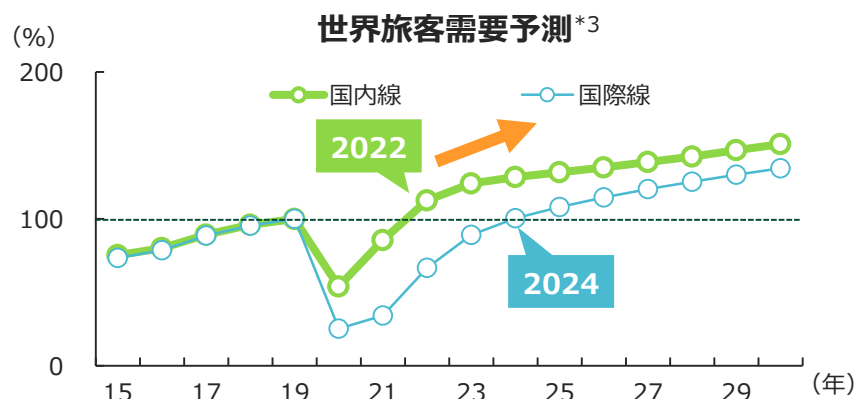
SMBCAC：強みを活かした資産効率向上

- 競合対比、現市況に強みのあるポートフォリオを構築

ナローボディ比率 80%超^{*1}

平均機齢 4.1年

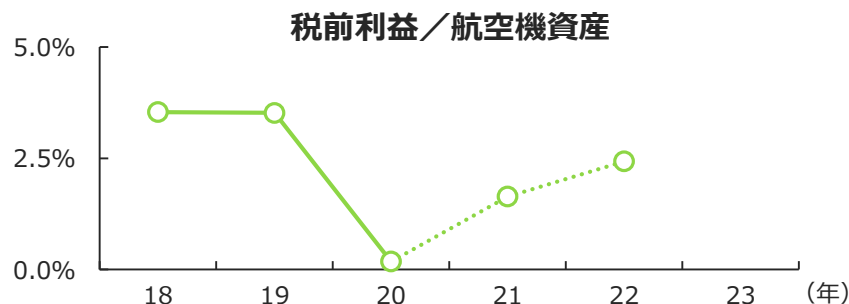
低燃費新型機比率 約6割^{*1,2}



- 財務基盤の強みを活かした
機材購入と売却による資産効率の向上

S&P格付 A-(業界トップ)

未引出借入枠 45億ドル



グローバルガバナンス高度化、リスク管理強化

地政学リスク

新たなビジネス領域への挑戦

マーケット変調

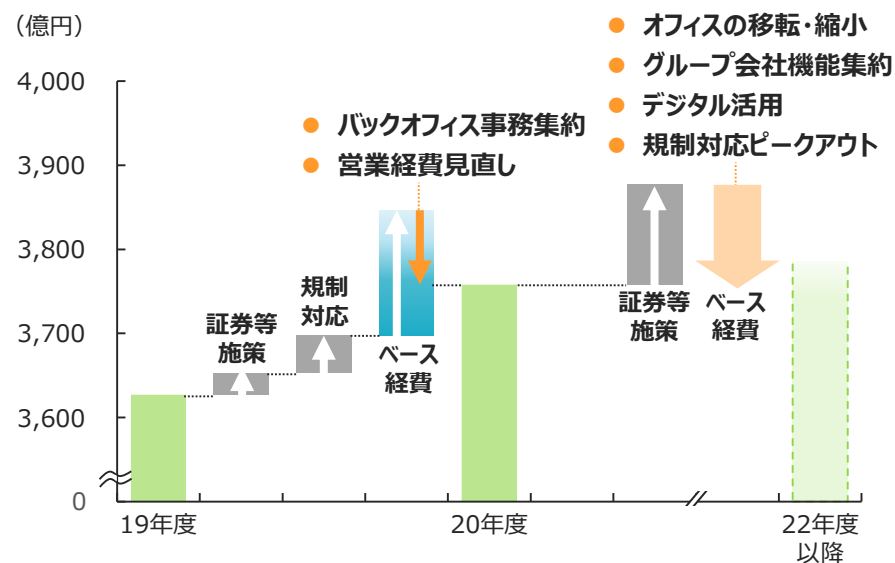
気候変動

金融規制強化

優先的にリソースを投入しプロアクティブに対応

- グローバル連携（ベストプラクティス共有、カルチャー醸成）
- グループCxO中心の態勢

経費効率の向上



*1 航空機資産 *2 Neo/MAX/A350/B787

*3 IATA/ Tourism Economics

市場事業部門

執行役専務 小池 正道

中期経営計画の進捗

財務目標

業務純益

2022年度目標
3,650 億円
2019年度比
▲300 億円

ROCET1

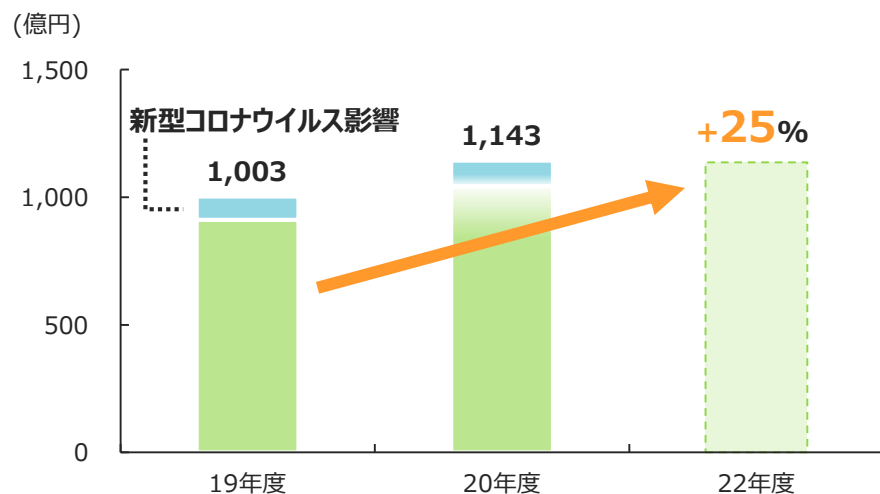
2022年度目標
17 %

リスクアセット

3カ年増減
+1.7 兆円
前中計期間
▲1.5 兆円

KPI

海外セールス&トレーディング収益額



20年度実績

	20年度	前年比
業務粗利益	4,607億円	+221億円
経費	▲829億円	▲33億円
(経費率)	18.0%	△0.2%
業務純益	4,135億円	+220億円
ROCET1	20.4%	+0.2%
リスクアセット	5.4兆円	+0.3兆円

主な取組

ポートフォリオ運営

- 機動的なリバランスにより収益を積上げ

セールス&トレーディング

- お客さまのヘッジニーズを的確に捕捉
- 海外ケイパビリティを本格強化

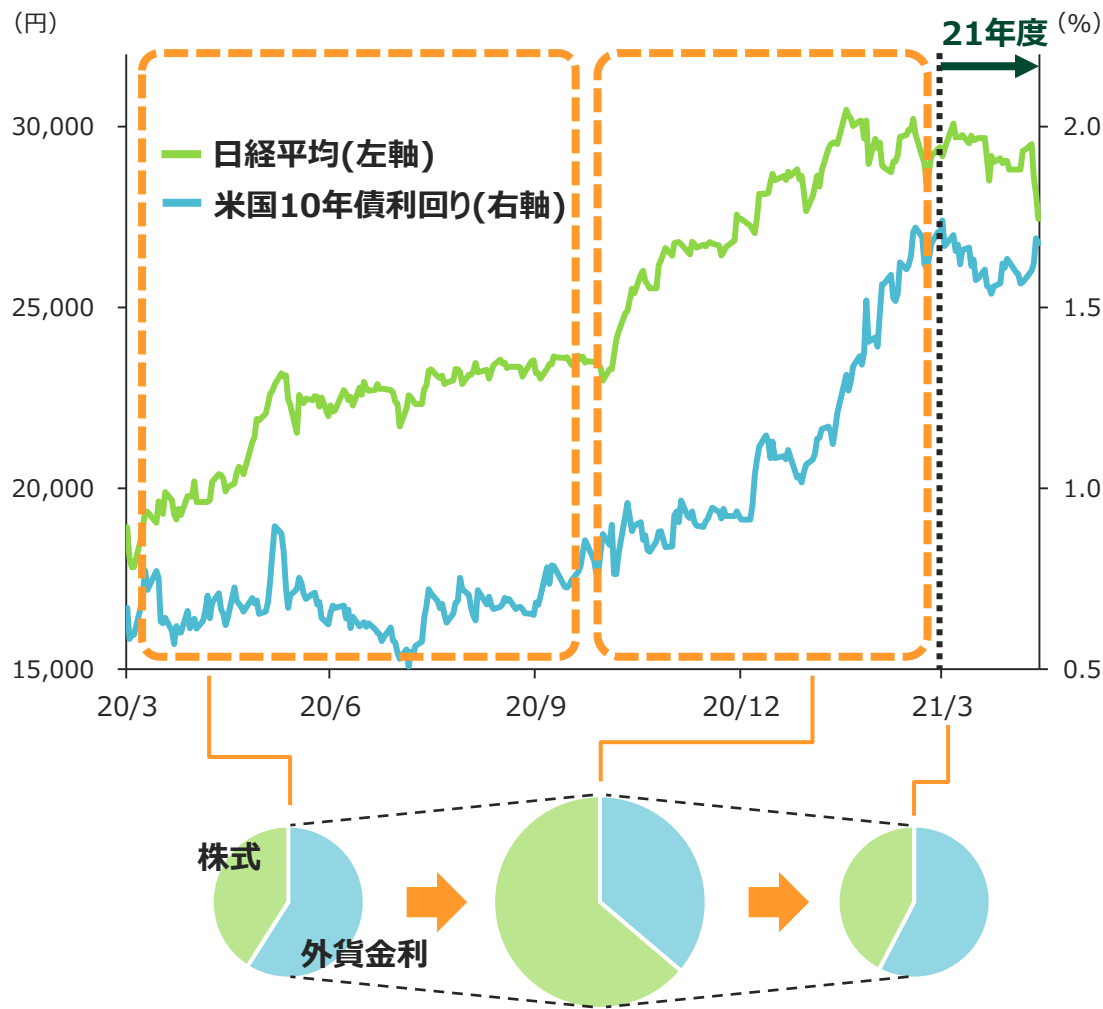
外貨調達

- ALM部署統合によりグローバル連携を強化
- ストレス時でも安定したB/S運営を実現

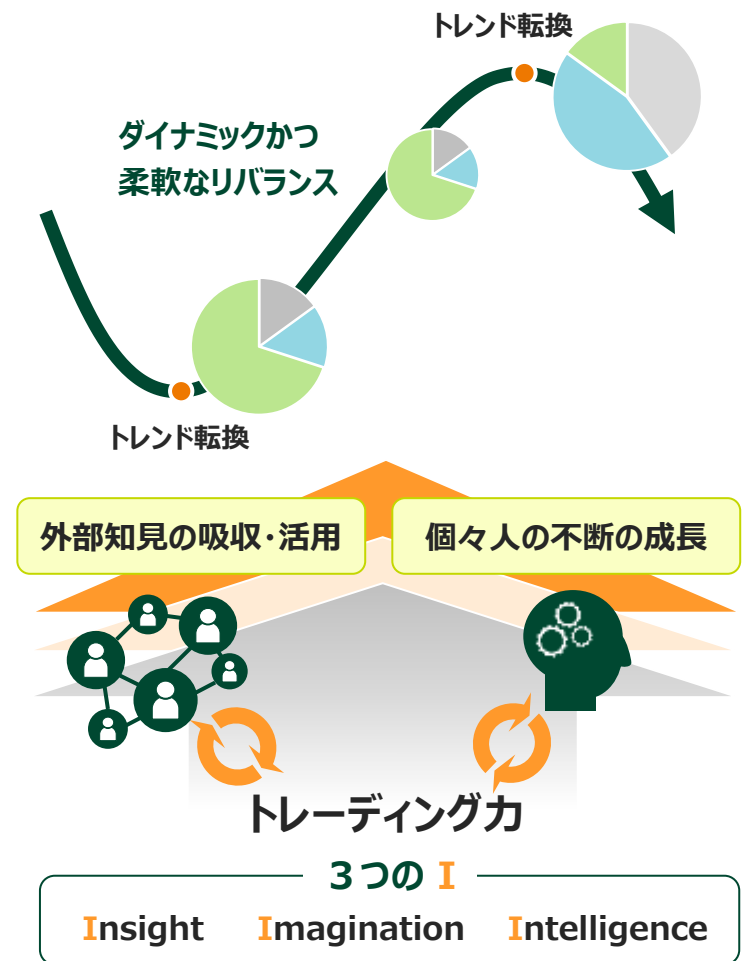
ポートフォリオ運営

「トレーディング力」によってトレンドの転換点を捉え、ダイナミックかつ柔軟にリバランス

20年度実績（ポジション量*の推移）



ポートフォリオ運営のポイント



セールス&トレーディング

■ お客さまのマーケットエクスポージャーに係るソリューションプロバイダーを目指す

ソリューション提供力の強化

リスクヘッジニーズ

事業法人

エクスポージャー把握



意思決定サポート
ヘッジ手法提供

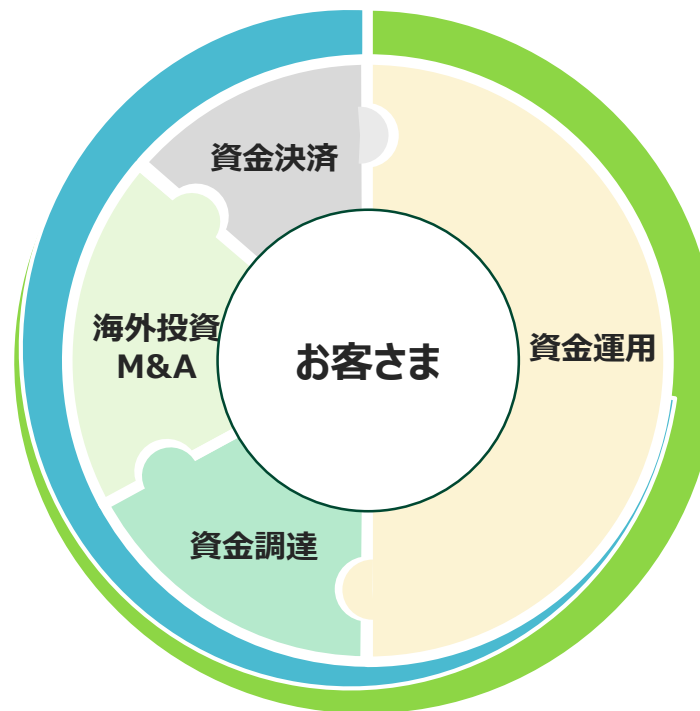
リスクテイクニーズ

投資家

リスクアペタイト把握



プロダクツ組成・提供



- ワンストップセールス推進
- ソリューションエッジの創出

- 米州FIST体制の確立
- アジアでのビジネス基盤拡充

- プロダクツの拡充
- ノンフロー推進

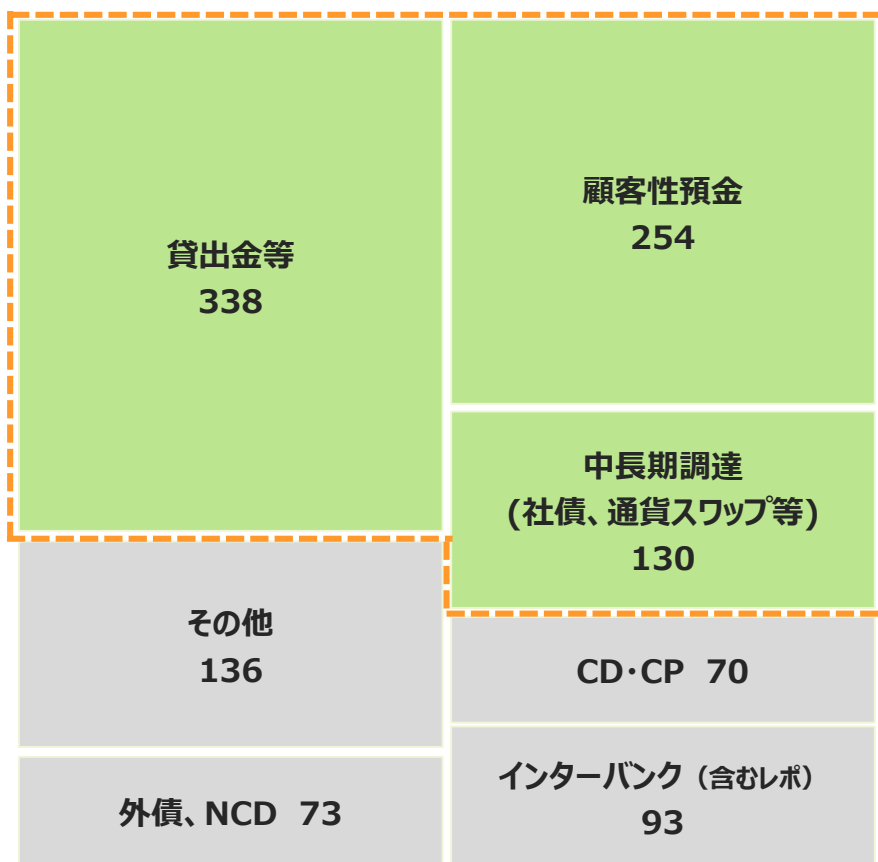
外貨調達

■ 長期的な視点に立って、安定性確保とコスト抑制の両立を追求

頑健な外貨ファンディングベース

21/3末時点の外貨バランスシート

(10億ドル)



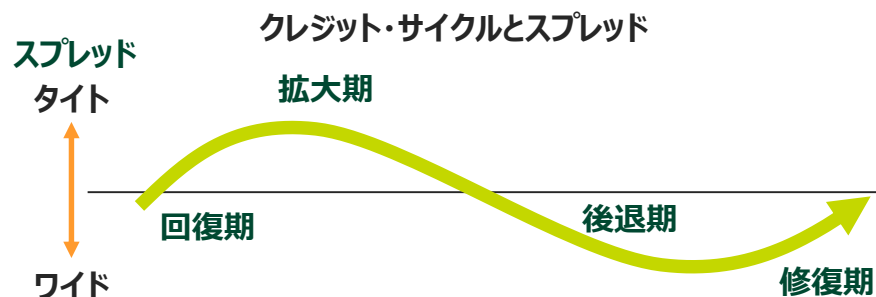
市況に応じた戦略的な調達

ファンダメンタルズ

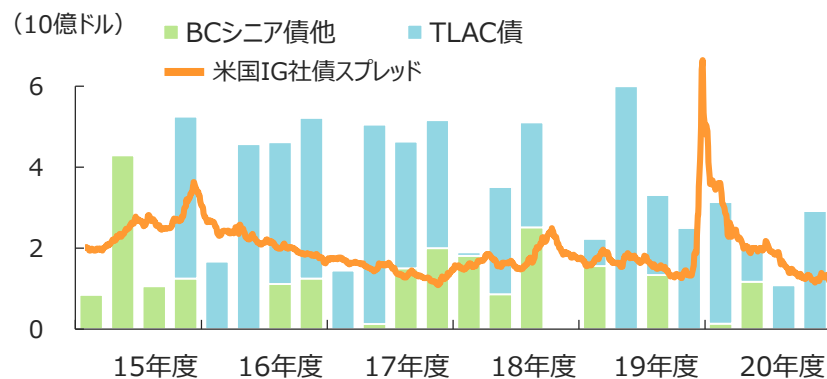
金融政策

需給動向

グローバルALM運営



社債の発行実績



本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有株式に係るリスク、不良債権残高および与信関係費用の増加、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収および経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスクなどです。こうしたリスクおよび不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態および経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものを参照ください。

為替レート（月末TTM）

	20/3末	21/3末
1ドル	108.81円	110.71円
1ユーロ	119.52円	129.75円

本資料における計数、表記の定義

SMFG	三井住友フィナンシャルグループ（持株会社）
SMBC	三井住友銀行
SMBC信託	SMBC信託銀行
SMFL	三井住友ファイナンス&リース
SMBC日興	SMBC日興証券
SMCC	三井住友カード
SMBCCF	SMBCコンシューマーファイナンス
三井住友DS	三井住友DSアセットマネジメント
SMBCAC	SMBC Aviation Capital

連結	三井住友フィナンシャルグループ連結
BC単体	三井住友銀行単体
経費（BC単体）	臨時処理分を除く
業務純益	一般貸倒引当金繰入前
親会社株主純利益	親会社株主に帰属する当期純利益

中期経営計画の財務目標	22年度計画および20-22年度増減は20年度基準での内部管理ベース - 増減は金利・為替影響等調整後
-------------	--